

行事／取組名称	オリンピックチャレンジ（物理） in 静岡		
担当者	原田 勲（JPh0）、岡野 哲也（静岡県教育委員会）		
開催日時・期間	平成 28 年 8 月 7 日（日） 12 時 50 分～15 時 45 分	会場	静岡県総合教育センター(掛川市)
主 催	静岡県教育委員会	後援	
共 催			
協 力	JPhO		
概要			
静岡県教育委員会高校教育課は「理数分野で卓越した意欲・能力を有する生徒を発掘するとともに、その意欲・能力をさらに伸ばす取組を行い、国際的に活躍できる科学者、科学技術者の育成を目指す」という主旨で「オリンピックチャレンジ」事業を始められ、それによって、科学オリンピック国内予選への参加を促している。物理分野では、JPh0 が物理の講座を受け持ち、講師として委員を派遣している。講座では、物理チャレンジや国際物理オリンピックの紹介、第 1 チャレンジ理論問題の解説、実験の実施、実験レポート作成などを行っている。 これらの講座を通して、参加生徒が物理への興味を喚起し、物理チャレンジなどへ積極的挑戦を行うことを願っている。			
参加者	教員	高校生	中学生
教員 3 名		11 名	0 名

報告事項
今回は 3 回シリーズの初回であり、下記のスケジュールで 2 つのテーマについて各々講義を行った：(1) 物理チャレンジと国際物理オリンピックの紹介を行うと共に、これらのコンテストに限らず興味あることに「挑戦」することの重要性と意義を述べ、今一歩踏み出すことの大切さを説いた。(2) 一方、過去の第 2 チャレンジに出題された光の偏光についての実験を、3 枚の偏光板を用いて実感させ、参加者に光の性質を体感させた。 <u>スケジュール</u> 12：50～14：10 物理チャレンジと国際物理オリンピック（IPh0）の紹介を行い、IPh0 へ至る道筋を示した。 14：25～15：45 光を題材にして物理への関心を引き出すクイズなどを行った後、光の偏光についての実験・解説を行った。偏光板を用いた簡単な実験では、3 枚の偏光板を通過する光の不思議さを実感した。 多くの参加者は物理未履修者であったが、彼らは、これまで見たり聞いたりして知っていた物理的現象、例えばよく知っていると思っている虹の背後にも簡単な法則が存在し、その法則に支配されて物理現象が起きていることを実感したとの感想を得て、これらの参加者に物理への興味を喚起するに十分であったと自負している。 12 月には、さらに 2 回の講座を予定しており、物理チャレンジなどで使用された実験器具を駆使しながら物理の興味深さを体験させる予定である。 最後に、この様な生徒に科学現象に興味を持たせる取り組みを県として継続されている静岡県教育委員会に、敬意を払うとともに感謝を申し上げ、今後も事業が継続されることを願う。